

連続立体交差事業による高架下空間の有効活用について



春日原駅から白木原・下大利駅を臨む

連続立体交差事業による
高架下空間の有効活用について

去る8月28日に西鉄天神大牟田線

のラッシュ時には、1時間に約40分
遮断機が降りていた「開かずの踏切」
が解消されました。この事業は、交通
渋滞の解消及び、踏切内事故を防ぐ
ため、はじめられました。平成15年

の工事着手から、数々の困難を乗り
越え約20年の歳月をかけての完成で
す。まだまだこれから高架工事のた
めに設けられた仮駅や、仮線撤去、
側道整備などを抱えていますが、踏
切がなくなつことによる効果は計
り知れないものがあります。

私の地元大野城市では、市制施行
50周年を祝つて、様々な行事が計画
され、コロナ禍であつても感染防止
に万全の姿勢で挑み、準備が進めら
れ、9月10日には、高架完成を祝つて
「まどかマルシェ」が開催されました。
新しくなつた下大利駅、白木原駅、
そして春日原駅と3つの駅で共同事
業として廃線ウォーキングや軽トラ市な
ど様々な催しが行われ、大変な人出
となり約14万人の人たちが訪れたとの
ことです。いかに高架事業が市民に
とって待ちに待つた喜ばしいことで
あります。

【令和4年9月定例会】一般質問要旨

一般質問要旨

あつたことが分かります。

今回の連続立体交差事業の高
架化によって再び新たな発見が
あります。それは春日、大野城
市役所同様に新下大利駅と新白
木原駅が互いに目視できるというこ
とです。

またワンヘルスの森に指定さ
れた四王寺山の山頂に登ると、

そこから望む西鉄天神大牟田線
の高架化した路線に列車が走つ
ていくのが見えます。これも新
たな発見です。

そこで知事にお尋ねします。
連続立体交差事業により高架化
したことで、県民の皆さんから
どのような声が届いているかお
答えください。
また、高架化に伴い生まれた
高架下の空間をまちづくりのた
めに活用することが期待される
わけですが、その利用について
は、福岡県、大野城市、春日市、
西鉄との間にその活用における
取り決めがなされていると承知
しております。

服部知事答弁

現在、春日原駅と白木原駅、
下大利駅を結ぶ高架下に遊歩道
や広場などが計画され、そこに
は民間利用を想定したエリアも
あると聞き及んでおります。今
後、構成自治体や西鉄をはじめ
高架下空間の活用のため、どの
ような整備が進められるのか。
それによりどのような効果が期
待されるのかお尋ねします。

スポーツによる高架下 の有効活用について

連続立体交差事業高架下の完
成によつて生まれた新たな空間
を、「スポーツ立県福岡」を目指
す本県がイニシアチブをもつて
民間の活力を使い、子どもたち
が夢と希望を持てる新たなス
ポーツの拠点ができるのではないか
と考えます。
これまで連続立体交差事業に多大
な額が投資されてきたわけであ
ります。私は西鉄が所有してい
る高架下の空間であつても、ま
ちづくりのための空間以外は、
ボルダリングや、自転車競技の
BMXなどのアーバンスポーツ
が楽しめる空間など、スポーツ
をする人、見る人が楽しめる
スポーツ施設づくりを進めら
れます。知事の所見をお伺いしま
す。

連続立体交差事業高架下の完
成によつて生まれた新たな空間
を、「スポーツ立県福岡」を目指
す本県がイニシアチブをもつて
民間の活力を使い、子どもたち
が夢と希望を持てる新たなス
ポーツの拠点ができるのではないか
と考えます。
これまで連続立体交差事業に多大
な額が投資されてきたわけであ
ります。私は西鉄が所有してい
る高架下の空間であつても、ま
ちづくりのための空間以外は、
ボルダリングや、自転車競技の
BMXなどのアーバンスポーツ
が楽しめる空間など、スポーツ
をする人、見る人が楽しめる
スポーツ施設づくりを進めら
れます。知事の所見をお伺いしま
す。

県と福岡市の事業区間を併せた
約5.2kmが高架化され、19箇
所の踏切が無くなりました。こ
れにより、長年の課題であった
交通渋滞や踏切事故が解消され
ました。

県民の皆様からは、「踏切が無
くなつたことで、移動がスムー
ズになり、安全に通行できるよ
うになつた」、「踏切の待ち時間
が無くなり電車に乗るために時
間がゆとりができる」といった
声が聞かれています。
高架下空間の利用については、
土地の所有権は西鉄にあります
が、国の取り決めにより、都市
計画事業施行者である県、春日
市、大野城市が高架下空間の
15%を利用することができます。
このことから昨年10月に西鉄を
加えた4者で「高架下公共利用
に関する協定」を締結し、これ
に基づき、春日市と大野城市が
イベント広場や地域交流施設、
駐輪場などを整備することとし
ています。

また、15%以外の高架下空間
においても、所有者である西鉄
が商業施設を整備するほか、一部
を大野城市が遊歩道や広場とし
て整備することとなつています。
これらの整備が進むことにより、
駅の利用者の増加が見込まれ、
駅周辺の賑わいや活力の創出が
期待されるとともに、沿線のま
ちづくりがさらに進むものと考
えています。

スポーツによる高架下の有効 活用について

こうした空間が、民間のもつ
斬新なアイデアやノウハウを活
用し、紹介のあつたゲーム性の
高いパークアーチャーリングや、ボ
ルダリング、BMXなど、若い
世代の関心が高いスポーツの場
になれば、次世代の子どもたち
がスポーツに関心をもち、夢を
見つける場ともなると考えられ
ます。

高架下にできる新たな空間の
活用については、土地の所有者
である西鉄と地元自治体で構成
される「高架下利用推進協議会」
で検討されています。県としては、
提案の趣旨を踏まえ、高架下に
できる新たな空間が、スポーツの
魅力が発信される場所となるよ
う、スポーツの場として整備し
ている事例を示すなど空間の活
用方策の一つとして同協議会を
通じて情報提供してまいります。



「する人、見る人」が楽しめるスポーツ施設づくり